

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そら		
○保護者評価実施期間	令和6年10月25日		～ 令和6年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和6年10月25日		～ 令和6年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内と近くに広い公園があるため、活動の幅が広く様々な内容で提供することができている。	月1回、チーム会議を行い、話し合いの場で具体的に案を出し合っていくことで、活動に反映することができている。	常勤の職員だけでなく非常勤職員のアイデアも取り入れ、さらに活動のレパートリーの幅を広げていきたい。
2	看護師、作業療法士、保育士の多職種連携体制がある。立場関係なく意見やアイデアを出して活動を担当している。	常勤だけでなく非常勤の職員からの意見も取り入れて運営を行っている。	どの立場の職員でも発言しやすい環境設定を行ない、より良い療育が出来るよう今後も努めていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経験年数や個人の考え方などにより、支援のスキルに差が出ている場面が見られることもある。	経験の差や個人の思いにより、統一した支援が不十分となっている。経験だけではなく知識の差もあることで統一した支援の難しさが生じている。	研修参加や勉強会を増やし、全体の底上げを行っていく。様々な場面で職員が経験を積む機会を作っていく。経験年数の長い職員と話したり、アドバイスを受けられる機会を設けていく。
2	地域の他の児童との交流の場を持つことができていない。	ご利用いただいている時間帯も放課後のため、そのような場に出向く機会が少ない。(時間が取れない) 保護者様の中には「交流は必要ない。」というお声もあり、悩んでいる。	保護者の方へ聞き取りを行い、必要があるのかも含めて今後検討していく。
3	放課後等デイサービスは児童発達支援に比べ、子どもの体が大きく、運動量もある為、「少し部屋が狭いのでは。」という声がある。	活動の内容や曜日によって利用に中高生が多いと、狭く感じる。 雨天時、元気の良い子はボール投げをしたりボウリングをしたりすると活動場所を広く要するため、狭く感じたりトラブルに発展したりこともある。	賃貸物件で収納も少なくこれ以上活動場所を広げる事は現実的に難しい。自他共の安全の為に、活動を見直したり、集団でのイベントを検討していく。